

## マイヤ・カデル研究員（ネパール）



はじめまして。私はネパールから来たマイヤ・カデル (Maiya Kadel) です。まず皆様に私の国について紹介いたします。ネパールは豊富な自然や文化を有する魅力的な国です。地理的には陸に囲まれた山岳地帯で、中国とインドの間に位置しています。これらの特徴的な要因から、ネパールは“ふたつの石に挟まれたサツマイモ”と称されます。ネパールの面積は 147,181 平方キロで 75 の県に分類されています。首都はカトマンズで、ブッダの生まれた土地としても有名です。さらに、ネパールは世界の屋根としても有名なエベレストを有しています。

私はネパールの中央部に位置するダディング県 (Dhading District) で生まれ育ちました。この地域において私は幼少期を過ごし、多くのことを学び、後にカトマンズの大学に進学することになりました。そして、トリヴバン大学 (Tribhuvan University) において修士号を取得し、現在は結婚し二人の子供と家族とともにカトマンズで暮らしています。

私は 1997 年に内務省でキャリアがスタートし、これまで様々な業務を経験してきました。そして、2009 年の 8 月からは災害管理部署において業務を行っています。内務省はネパールにおいて災害に対する対応や防災対策を主な業務としています。またこの省は、国レベルの政策、計画やガイドラインの作成、災害対策や対応、復興のための活動実施なども行っています。

現在は ADRC の客員研究員プログラムにおいて、日本で 4 ヶ月を過ごせることをとても嬉しく思っています。このプログラムにおいて、私の防災に関する知識を向上させ、地域や国や国際レベルにおける減災の活動に役立つことができるよう努めたいと思います。

内務省においては、コミュニティレベルでの災害対応計画における研究に取り組んでいますが、このプログラムを通して、災害対応計画における既存課題を抽出することで、適切な政策のガイドラインを提言することができると思います。

私はこの客員研究員プログラムが、災害リスクの軽減や災害対応計画における住民参加の活動に関する活動において、大変効果的な影響を与えることができると期待しています。さらに、私が必要としている経験や知識、国際的な感覚は、災害リスクの軽減を成功に導

くため、災害予防の促進に役立つものであると期待しています。